

興性菩薩ノ醫師ニ談合シテ、不辨ノ客僧ナド朝腹ニテ乞食ニ出ル時、風ヲ不引飲食ヲ能クス、  
 メ氣力虫等ニ可然タヤスキ藥何カアルベキト被仰付、此藥可然旨依異見申スニ、世ニ流布云々、  
 〔本朝醫談〕老談一言記、加藤清正の醫師いひし事あり、高麗陣の時に、水土にも習はず、正氣散の方  
 劑之かるべしとて、其料を用意して渡りしが、按の如く、皆々煩ふ事ありしかば、不換金正氣散を  
 服せまむるに、其驗なし、かの醫試に與ふべき藥ありとて、一人に先づ藥を與ふるに、立處に驗あ  
 り、茲に於て其它の者どもに與ふるに、ことごとく功あり、其方を問に香蘇散なり、其故を問に、陣  
 中にて氣鬱を兼たる故なりといふ、それより他の大將の家中也、皆香蘇散にて病いやせる事を  
 得たりと見ゆ、太平の世といへども、時を踰る旅行はある事なれば、此心得あるべきなり、本藥を  
 外感に用ふる事、知ざる醫なし、食傷にもよきなれば、略○中諸病に加減して用ふるなり、

湯藥

〔倭名類聚抄〕十二湯藥 諸家方云、皇子湯一名王子湯、治下痢、欲死、小豆湯、白石湯、大黃湯、破棺湯服之破棺、蘇生  
 二皮湯用桃李梓樹皮、石榴湯治痢、杏仁湯、犀角湯治脚腫、鯉魚湯、五香湯治丁腫、葵根湯治渴、大豆湯一云大豆漿、治產後  
 中走馬湯治下痢、如走馬、大棗湯治吐血、厚外湯治霍亂、理中湯、麻黃湯、梁米湯、竹皮湯治衄血、離瘡湯治瘡、未發之前  
 服之即離、桂心湯、龍骨湯、青龍湯、玄龍湯、白虎湯、伏苓湯、麻子湯、生薑湯、當歸湯  
 故以名之、甘草湯、瞿麥湯治胞衣不出、救明湯治上氣欲死、遠命湯、還魂湯全死、口噤者、服之亡生、九盞湯煮藥之間、加九盞水、煮之、故以名之、馬道  
 湯治下血、三沸湯、五木湯煮槐柳桃桑穀五木、治脚氣  
 〔政事要略〕九十五至要雜事、爲視陰陽効驗載之  
 湯。料。藥。者。大黃。吹。咀。以。清。少。水。經。一。宿。而。令。盡。其。水。然。後。諸。藥。所。煮。過。半。復。加。大。黃。但。芒。消。煮。了。之。後。加  
 而。研。耳。如。是。之。類。可。知。其。理。但。不。可。專。業。也。

煎藥

〔倭名類聚抄〕十二煎藥 考聲切韻云、煎、煎、煎、一、煮、藥、汁、令、稠、也、諸家方云、枸杞煎、骨填煎、蘇密煎  
 生薑煎、地黃煎、茱萸煎治胃中、杏仁煎治失聲、百部煎治咳、厚朴煎